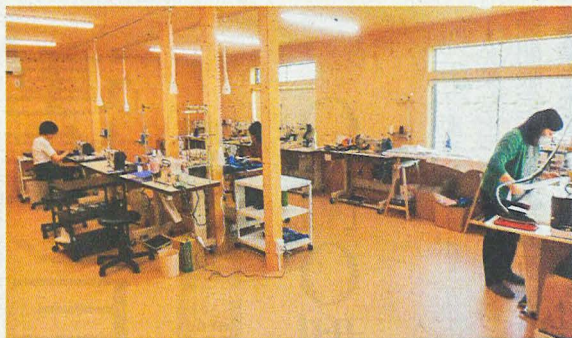


京美染色

捺染工場の隣に縫製工場



プリント加工場の京美染色(京都市、大塚晴夫社長)は、OEM(相手先ブランドによる生産)への対応に力を入れる。捺染を手掛ける亀岡工場(京都府亀岡市)の敷地に縫製工場を新設し、製品OEMを強化するとともに、工場で働く社員のモチベーション向上を狙う。

新設した縫製工場は1月から稼働し、現在は4人の社員が働いている。半導体不足の影響などで設備投入が遅れたものの、京都のテキスタイル・製品ブランドから注文が入り滑り出しは順調という。

工場内には本縫いミシンやロックミシンなどが9台、アイロン1台、

製品OEM強化へ

ナムックスの自動裁断機「エコピーア」を備える。社員は全て女性で、階段昇降の負担を減らすために生地や製品用のエレベーターも設置した。工場の面積に限りがあるため、30〜100着程度の小、中ロットでの対応を想定している。

縫製工場を捺染工場と隣接させた狙いは工程間の連携強化。工場同士が近い方がよりコミュニケーションができ、状況の確認もしやすい。染色工場は最終製品を見る機会が少なく、「隣に工場を置くことで最終製品を見ることができ、モチベーションにつながる」と大塚直史代表取締役。社員同士の交流も生まれ、社内の雰囲気が変わるなど相乗効果も多い。今後は縫製工場を持つ強みを生かし、自社企画によるファクトリーブランドに挑戦したい考えだ。

新設した縫製工場